

- 5) Kasugai, T., et al.: Fiberduodenoscopy; Analysis of 353 examinations, *Gastroint, Endosc.*, **18**: 9-16, 1971.
- 6) 春日井達造・他: 内視鏡的膵・胆管造影に関する研究, *日本消化器病学会雑誌*, **68**: 799-816, 1971.
- 7) Kasugai, T., et al.: Endoscopic pancreatocholangiography, I; The normal endoscopic pancreatocholangiogram, *Gastroenterology*, **63**: 217-226, 1972.
- 8) Kasugai, T., et al.: Endoscopic pancreatocholangiography, II.; The pathological endoscopic pancreatocholangiogram, *Gastroenterology*, **63**: 227-234, 1972.
- 9) Kasugai, et al.: Manometric endoscopic retrograde pancreatocholangiography; Technique, significance, and evaluation, *Am. J. Dig. Dis.*, **19**: 485-502, 1974.
- 10) Kasugai, T.: Recent advances in the endoscopic retrograde cholangiopancreatography, *Digestion*, **13**: 76-99, 1975.

● ニュース / 今春開催された外科関係学会

□ 第 77 回日本外科学会総会

Visual な好企画に人気

定型的手術手技・シネシンポジウム



日比谷公会堂 2000 余の椅子が完全に埋め尽くされた「映画による定型的手術手技」、わが国外科領域のエキスパートが参集したシネシンポジウムなど Visual な好企画が目立つ今年の外科学会は、連日、各会場に真摯な聴衆を集め盛況裡にその幕を閉じた。臨床面ではこれからのテーマとも言うべき、パネルディスカッション“外科における臓器相関”には基礎、臨床のパネリストが鮮やかに融合、意義ぶかい嚆矢を放つたのを始め、外科学会がもつ今日のテーマをもれなく拾いあげたシンポジウムでもフロアーとの応酬が活発に行なわれた。なお次回第78回総会は明年4月3—5日(予定)、会長 九大教授 井口 潔氏のもと福岡市で開かれる。

Surg. Gynec. Obstet., 65 : 70, 1973.

- 17) 佐藤寿雄・他：胆石症手術における偶発症，臨床外科，27 : 1045, 1972.
- 18) 香月武人：総胆管胆石症の治療，臨床外科，27 : 420, 1972.
- 19) 富田壽児・他：胆道手術におけるTチューブ誘導術，外科診療，13 : 1344, 1971.
- 20) 杉浦光雄・他：総胆管Tチューブ誘導術について，外科診療，13 : 1351, 1971.
- 21) 宮崎逸夫・他：胆道内圧・流量測定の意義，外科，38 : 551, 1976.
- 22) 相馬 智：術中胆道造影カンファランス，臨床外科，32(6) : 736, 1977.
- 23) 永川宅和・他：術中胆道造影セット，医学のあゆみ，1977. (掲載予定).
- 24) Kehr, H. : Technik der Gallenstein operationen, 318, München, Lehmann, 1905.
- 25) 春山茂雄・他：遺残結石の非観血的除去術，手術，27 : 919, 1973.
- 26) 山川達郎・他：肝内結石症に対する内視鏡的アプローチ，日消外会誌，37 : 161, 1976.
- 27) Mohorner, H., et al. : Removal of a residual stone from the common bile duct without surgery, Ann. Surg., 197 : 857, 1971.
- 28) Hubert, C. P., et al. : Overlooked gallstones and the retrieval, Am. J. Surg., 125 : 257, 1973.
- 29) 久次武晴：肝内結石症に対する治療対策，外科治療，34 : 409, 1976.

● ニュース／今春開催された外科関係学会——日本消化器外科学会第7回大会

消化器全領域を網羅したプログラム



南国の明るい日ざしのもと全国の外科医が糾合し熱心な討論をくりひろげた



会期中，その会員が5000人を突破したという，マンモス学会の1つ，日本消化器外科学会第7回大会（会長 鹿児島大学教授 秋田八年氏）は3月9日から11日まで一足早く春の訪れた鹿児島市を舞台に，およそ1500名の外科医を糾合して行なわれた。教育講演を担った陣内伝之助氏の“消化器外科の手術手技”はフレッシュマンから専門家までを極めて含蓄ある講演で魅了したのを始め，上部消化管から下部消化管に至る各論での詳細な討論が行なわれた。一方，シンポジウム“進行胃癌の手術と補助療法の再評価”などのいわば搦め手からのアプローチ，また招待講演，西独 B. Löhr 教授の“大腸憩室症の外科治療”などの啓蒙的演題など，きめこまかいプログラムが予定どおりこなされ，全日程を盛況裡に終えた。

食塩水による洗浄を試みたが、これは選択的胆管造影法と同様に細い teflon tube を内視鏡的に病変部に挿入し、(図 6, 7)のごとくその tube の他端を総胆管内に挿入した straight tube の内腔を通して体外に誘導して洗浄液、溶解剤の注入に用い、その注入液は straight tube を通して回収するものである。この方法なども内視鏡なくしては行ない得ない工夫と言えるであろう。実際 T-tube を通して洗浄などが行なわれているが、造影剤が目的とする場所になかなか到達しえないと同様、この方法ではその効果も疑わしいものである。その他三爪、二爪鉗子や穿掘用鉗子等を工夫して用いているが、結石が可動性を有するか否かでこれらを使いわけの必要がある。今後さらに性能のよい鉗子が工夫されていくであろう。

以上胆石症の診断ならびに治療上、内視鏡を用いてこそでき得る各種の工夫を述べさせていただいたが、諸家の御追試を御願ひする次第である。

文 献

- 1) Yamakawa, T. et al.: An improved choledochofiberscope and non-surgical removal of

retained biliary calculi under direct visual control. Gastrointes, Endos., 22: 160-164, 1976.

- 2) 山川達郎・他: 肝内結石症に対する内視鏡的アプローチ, 日臨外, 37: 161-169, 1976.
- 3) 山川達郎: 胆道手術後の困難症の予防と治療—とくに内視鏡的アプローチの臨床的意義—, 臨床外科, 31: 1589-1597, 1976.
- 4) 山川達郎・他: 改良型胆道ファイバースコープ, Gastroenterological endoscopy, 13: 459-467, 1975.
- 5) Burhenne, H. J.: The technique of biliary duct stone extraction; Experience with 126 cases. Diagnostic Radiology. 113: 567-572, 1974.
- 6) 城所 仂・他: 遺残胆管結石の非視血的摘出法—ことに内視鏡的摘出法との比較, M. Joachim Burhenne, M. D. を囲んで, Gastroenterological Endoscopy (印刷中).
- 7) 小牧文雄・他: 肝内結石治療に必要な鉗子の工夫, Progress of digestive endoscopy. 9: 65-68, 1976.
- 8) 埜口武夫・他: 改良型胆道ファイバースコープによる直視下選択的胆管造影法, Gastroenterological Endoscopy. 7: 174-177, 1975.

● ニュース／今春開催された外科関係学会

第 50 回日本整形外科学会

50 年の歴史

記念式典でその足跡 をふりかえる



第 50 回日本整形外科学会総会・学術集会が、さる 4 月 9～11 日、伊丹康人(慈医大教授)会長のもと、東京・高輪のホテルパシフィックで開催された。

半世紀の歴史を持つに至った本学会は、7,000 名近い会員を有し、また研究業績、社会的役割という点で、質量ともに世界のトップクラスの学会へと成長発展してきた。今回は、50 周年記念行事として、記念式典および日、仏、英、伊、米、西独各国の“整形外科の歩み”と題しての記念講演会がもたれたのははじめ、斯学の進歩・発展の成果が多数開陳され、多大な成果を収め盛況裡に終了した。なお、次回総会は、会長、猪狩忠氏(岩手医大教授)のもと、明年五月、盛岡で開催される。